# ワクチンの効果について

#### 感染予防

接種した人が感染しない

- ○感染予防効果は実証しにくく、臨床試 験で確認することは稀。
- ○発症しない感染者が多数存在する新型 コロナでは、実証はほぼ不可能と考え られる。

#### 発症予防

発症者が減少

○接種者と非接種者を比較する臨床 試験等で、両群の発症者の数を比 較することで、効果を測定できる。

### 重症化予防

重症患者が減少 (死亡・入院等)

○接種者と非接種者を比較する臨床 試験等で、両群の重症者の数を比 較することで、効果を測定できる。

# 実証が難しい

## 臨床試験(治験)等で評価を行うことができる

### 集団免疫効果

接種していない人にも
波及する予防効果



<u>大規模な接種後まで</u> 分からない

- ○集団免疫効果は、「接種した人が増えると、接種していない人でも発症者が減少する」ことで実証される。
- ○集団免疫効果がみられるのは、
  - ・ワクチン自体に感染/発症予防効果がある。
  - ・接種率が(基本再生産数に応じた閾値より)高い
  - ・ヒトーヒト感染する感染症である。

等の条件が満たされたとき

○実際に接種者が増えた後、集団免疫効果が判明すれば、ワクチンにより感染させない効果があったことが明らかになる。

例:インフルエンザワクチンでは、一定の発症予防効果(研究により20から60%)や、重症化を予防する効果が示されているが、集団免疫効果はこれまで実証されていない。



- 厚労省資料によると感染予防効果も集団免疫も不明
- 感染予防効果に関しては途中から「確認されている」と見解を変更
- メディアが曲解したといって責任逃れするかもしれない

図 4-1-2: 当初からワクチンでの感染予防効果も集団免疫も不明